

## 浦臼市街の歴史的建築物の街並み

ちょっと年配の方なら、浦臼の市街に古い建物が並んでいた記憶があると思います。ここでは、その歴史を資料写真で辿ってみました。

## 70年間変わらなかった街並み

役場周辺の浦臼市街中心部には歴史のある建物が多く建っていたことが、過去の写真を見ると良く分かります。写真①～③は国道275号沿いの尾花商店の並びの風景です。戦前から平成20年頃まで、ほぼ変わらない街並みであったことが分かります。限られた範囲とはいえ、およそ70年もの間、街並みが変わらずに残されている例は、北海道では数少ないと思われます。

写真③で見ると、札幌側（写真の右側）から順に、いとうさんちの焼肉苑（木造2階建て）→尾花商店母屋（木骨石造2階建て）→尾花商店蔵（木骨石造2階建て）→ゴトー薬粧（煉瓦造2階建て）→横田商店→マルサン高橋（木骨石造2階建て）の6棟が並んでいます。

写真には写っていませんが、国道を挟んで向かい側には後藤商店（石造2階建て）→聖園教会（木造一部2階建て）→館（木造2階建て）の3棟が並んでおり、浦臼村の発展を支えてきた歴史的建物が約300mの狭い範囲にまとまっています。



写真① 戦前と思われる



写真② 昭和40年代か

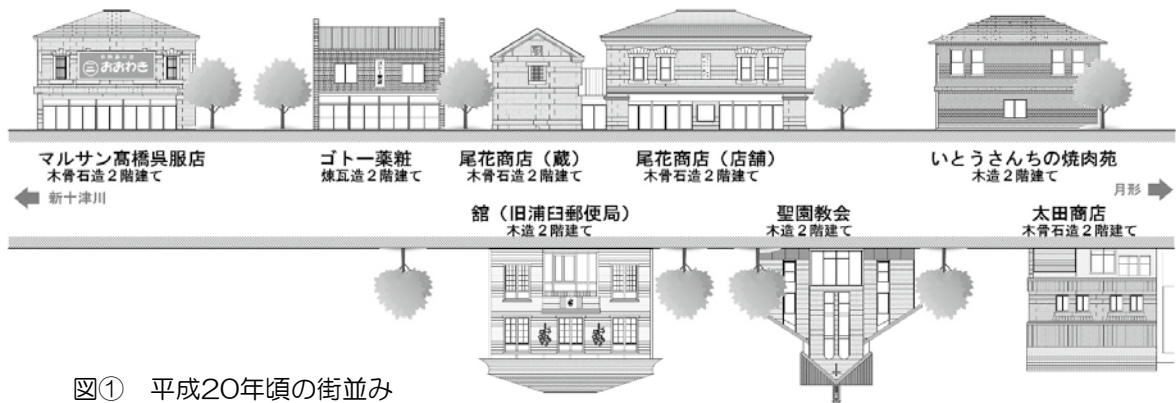


写真③ 平成20年頃

※写真はいずれも浦臼町郷土史料館所蔵

## 15年ほど前の街並み

図①は平成20年頃の街並みをイラストにしたものです。現在は国道の東側（図①の上側）は、尾花商店を除いて残っていませんが、このイラスト通りに存続していれば、昭和初期にタイムスリップしたような、北海道の農村開拓の歴史を代表する道内有数の歴史的建築のエリアとして評価されたでしょうから、少々残念に思う次第です。



図① 平成20年頃の街並み

こんにちは、札幌市立大学の三角颯音です。

2年ほど続けさせていただいたこの「うらうす建物紹介」はこの記事をもって終了となります。ここまで読んでくださり、ありがとうございます。

3年ほど前に浦臼町に初めて訪れた際、歴史を感じる街並みを見て大変感動したことを覚えています。浦臼町の皆様にとって当たり前の景色であるこの街並みに、実はとても価値があるということがこの建物紹介の記事でご理解いただけたのであれば、本望かなと思います！

最後に、建物の調査にご協力いただいた皆様、浦臼町役場の皆様、この記事を最後まで読んでくださった皆様、本当にありがとうございました！



私たちの浦白には誇らしい特産品や風景が数多くあります。それらをつくるのは一人ひとりの仕事や取組みです。この連載では浦白の誇りをかたちにしている様々な人の思いを紹介します。

「浦白の品種で契約栽培してほしい」。浦白のぼたんそばが注目されたのは、奈井江のからまつ園店主だった故・佐藤道夫さんが当時の浦白農協に要望にいらつしやつたことが始まりでした。昭和62年のことでした。偶然、いえ、今思うと大変幸運なことになりました。私が農協の担当者だったんです。そばは収量が少なく価格も不安定のため課題が山積していましたが、特別条件を示す佐藤さんの熱意にほだされて、20戸ほどの農家が手を挙げてくれて生産が始まりました。

### そば職人の要望

浦白といえば、ぼたんそば。その火が絶えぬように



浅木 富治雄 さん

### 職人の願いに

#### 大勢が動きはじめた

浦白の誇れるそば文化が現在に続くまでには、生産農家、農協、そば同好会、そしてそばを愛する地域の皆さんなど、本当に多くの方々の理解と協力が欠かせませんでした。平成に入って登場した品種・キタワセソバが多収で育てやすいのに比べて、大正生まれの在来種を改良したぼたんそばは倒伏、脱粒、病気に弱いなど欠点だらけ。ですが食味は最高です。味を犠牲にせず手間をかけ、そば職人の心意気を今も受け継いでいるのが、ぼたんそばだといえます。

### そば打ちは定年後。

#### 浦白でそば文化が続いてほしい

最初は佐藤さんがそば打ち教室を開いてくれて、私もそこで学びました。



#### そば文化の役割は「みんな」

佐藤さんの熱意で多くの方がそばに関わるようになりました。農家の人はもちろんのこと、農協でも機械を整備して製粉技術を作りました。そばまつりも開催するようになり、たくさんの方に浦白のぼたんそばが親しまれるようになりました。浦白そばのよいところは、みんなが参加できることです。

ぼたんそばはプロのそば職人の店にも使ってもらっていますが、地域の人たちもそば打ちを楽しんでいます。

60歳近くになっても、そば打ちを始めたのが、楽しくて夢中になつて自宅の物置をそば工房に改装してしまいました。80歳手前まで大病してからは打つことはやめました。テレビや雑誌の取材も来て、浦白のぼたんそばが広く知れ渡りました。

手打ちで楽しむ文化も伝えたいと活動してきました。誰でも練習したら上手になりますよ。ぜひ多くの町民の方に気軽に挑戦してほしいです。浦白のそば文化は、職人や町民たちで育ててきたもので、す。美味しいだけではないから、みんなの思いが詰まってるから大切なものになってると思いませんか。

「浦白といえば、ぼたんそばがある」。その誇りがずっと火を絶やさぬように続いたら、こんなにうれしいことはありません。

浅木 富治雄（あさき ふじを）さん●1936年生まれ。農業協同組合に勤務し事業部長などを歴任後に定年退職。うらうす手打ちそば友の会会長として、2001年（平13）初開催から2009年第9回まで「浦白そば祭り」実行委員長を務めた。座右の銘は「今やらなくて、何時やる。俺がやらずに誰がやる」